

国語

平均正答数は、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。
「話すこと・聞くこと」の領域は、話し合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる問題に課題が見られました。
「書くこと」の領域は、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。目的や場面に応じて集めた材料を整理して伝えたいことを明確にする問題が高い正答率でした。
「読むこと」の領域は、文章と図を結び付けてその関係を踏まえて内容を解釈する問題や目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題に課題が見られました。
「情報の扱い方」に関する事項では、情報と情報との関係について、具体と抽象に対する理解は高い正答率の一方で、意見と根拠への理解に課題が見られました。

数学

平均正答数は、県平均より低く、全国平均よりやや低い結果でした。
「数と式」の領域は、場面における考察の対象を明確に捉えて正の数と負の数の加法を計算する問題が高い正答率でした。
「図形」の領域は、筋道を立てて考えて証明する問題や事象を角の大きさに着目しながら観察して解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす問題に課題が見られました。
「関数」の領域は、二つのグラフにおける y 軸との交点について事象に即して解釈する問題の正答率は高い一方で、事象を数学的に解釈して解決の方法を説明する問題に課題が見られました。
「データの活用」の領域は、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する問題に課題が見られました。

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査

小牧市の分析まとめと
対策について【中学校】

令和 6 年 1 0 月
小牧市教育委員会
教育長 中川 宣芳

本年度の分析にあたって

4 月 1 8 日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、教科によるばらつきはありますが、県平均とほぼ同等の結果となりました。
この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。
小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

学習態度・生活態度の状況

質問紙調査から

毎日同じくらいの時刻に起きているか	肯定的 92. 2%
朝食を毎日食べているか	肯定的 90. 0%
全国平均と概ね同じ結果でした。家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが分かります。	
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にし、互いに協力しながら課題解決に取り組んでいるか	肯定的 92. 9%
人が困っているときは、進んで助けているか	肯定的 91. 8%
いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか	肯定的 94. 8%
全国平均と同等の高い値を示しています。規範意識とともに、互いを大切な存在として尊重し、それぞれの考えを認め合い、協力して学校生活をよりよくしようとする意識・態度を育成していきます。	

自分にはよいところがあると思うか	肯定的 81. 9%
将来の夢や目標をもっているか	肯定的 62. 0%
地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思うか	肯定的 73. 1%
全国平均と概ね同じ結果でした。自分のよさや個性を肯定的に理解し、自分の役割や将来の生き方を考えられるよう、キャリア教育をより充実させていきます。	
国語・数学の授業の内容はよく分かるか	肯定的 80. 1%(国)・71. 0%(数)
国語・数学の授業で学習したことは将来役に立つと思うか	肯定的 86. 7%(国)・74. 2%(数)
全国平均よりやや低い結果でした。「分からない」を大切にした授業を心がけると同時に生活場面からの課題設定や社会生活への発展応用の場面を多く取り入れることで、実感をともなう内容理解と各教科の有用性や社会とのつながりに対する意識向上を目指します。	

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか 肯定的 75. 1%
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができているか 肯定的 74. 8%
これからの変化の激しい時代を生き抜くため、自ら学び方を工夫・調整したり、学んだことを実生活に生かしたりする力が求められます。総合的な学習の時間を中心に、生徒自身が見いだした課題を深く追究する学習活動を充実させていきます。
1、2 年生までの授業で、I C T 機器をどの程度使用したか。 ほぼ毎日 66. 3% 週 3 回以上 22. 2%
学習の中での I C T 活用についてどれくらい当てはまるか
・分からないことがあった時すぐに調べる 肯定的 94. 7%
・友達と考えを共有したり比べたりする 肯定的 88. 3%
ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて 2 倍以上の高い値であり、授業において日常的に使用され、考えの共有や学びの蓄積に不可欠な道具になっています。生徒自身も I C T 機器のよさを実感し、自分の目的に合わせて効果的に活用する能力や態度が向上していることがうかがえます。